

## 菱肥会ブロック交流研修会、4年ぶりに開催

去る6月19日から21日にかけて、恒例の菱肥会ブロック交流会が北海道で開催された。前回の沖縄での開催から4年ぶりとなり、全国から会員、賛助会員、および事務局を合わせて総勢42名が参加し、盛況のうちに幕を閉じた。主催は北海道菱肥会が行い、20日は小雨が降る中であったが19日と21日は快晴で、北海道の平均気温は24度前後と過ごしやすかった。

19日は新千歳空港に集合後、バスにて門別競馬場へ移動し、ジンギスカンを楽しんだ。競技場内でジンギスカンを食べられるという北海道内でも珍しいお店で、バケツの上に乗せた鍋で楽しむ、通称「バケツジンギスカン」が名物である。

会場では当社社長の菅生より、「昨年11月に5年ぶりの全国総会を開催し、多数の方にお集まりいただきましてありがとうございました。昨年の11月に続き、今回のブロック交流会、11月にはインドに海外視察の予定となっております。海外視察



についても引き続き皆様のご参加をお待ちしております。今日から3日間、皆様で交流懇親を深めていただき、情報交換を進めていただければと思います」と開催の挨拶をした。

また、北海道菱肥会千葉理事長（株式会社日の丸産業社社長）は「札幌支店の大庭支店長から相談をいただき、今回の企画について提案をさせていただきました。怪我無く楽しんでいただければと思います」と話され、今回のブロック交流会の成功と菱肥会の発展を祝して乾杯のご発声があり懇親会を開始した。

新規賛助会員として九鬼肥料工業株式会社札幌支店の廣谷支店長より「皆様に貢献できるよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます」とご挨拶いただいた。

最後に、三菱商事株式会社関西支社マテリアルソリューション部の宮澤部長は「コロナ禍を経て再開されたブロック交流会は、参加者の一体感を高める良い機会となりました」と話され、中締めとなった。

20日は、苫小牧市内にあるクボタビジターセンターとクボタアグリフロントで、最新の農業技術について見学。クボタビジターセンターでは、豊田肥料株式会社の豊田相談役から「ブロック交流会が4年ぶりに北海道で開催されました。昨年11月に全国総会が行われ、来年も東部菱肥会主催でのブロック交流会が計画されています。飛行機が滑走路を相当なスピードで走っていくように、私たちは一つの方向に向かって勢いを感じながら、さらなる成果を目指して努力していく必要があると考えております。皆様のご参加に心から感謝申し上げます」とご挨拶を頂戴した。



(前ページより続く)

その後、最新のドローンや北海道ならではの大型トラクターを見学した。保管庫では出荷前の大小様々なトラクターが軒を連ねておかれており、とても印象的であった。さらに座学では最新のドローンに関する講義があり、その技術の進化と農業への活用方法について興味深く学んだ。クボタアグリフロントでは「今後の農業、食についてどのように考え行動するか」というテーマのもと、2班に分かれて施設内を見学。この施設では、自動化された収穫システムやIoTを活用した作物管理システムなど、革新的な技術が導入されている。これらの技術により、効率的な農業生産が可能になるという姿を目にしなが



クボタビジターセンター

ら、各々がこれからの農業について思いを馳せる良い機会となった。

最後はエスコンフィールドでの自由行動の後、閉会式を執り行った。北海道菱肥会開地運営委員長（株式会社日の丸産業社常務）より、「菱肥会ブロック交流会、2日間大変お疲れ様でした。とても充実した研修となったのではないかと思います。我々農業資材を扱う販売業者としては厳しい局面を迎えており、全員で協力し合いながら乗り越えていければと考えております。最後になりますが、お集まりいただきました皆様本当にありがとうございました」とお言葉を頂戴し、閉会となった。

20日の懇親会では、四国物産株式会社守谷会長より「久しぶりにブロック交流会に参加させていただき、非常に楽しい会になったのではないかと存じます。皆様とお話したうえで、良い情報交換ができればと思います」と乾杯のご発声をいただいた。

株式会社ネイグル新潟の山田部長より「今回のブロック交流会は楽しい2日間となりました。全国の皆様とお話をさせていただいたことで、参考になった点が多々ございます。これを今後の商売の参考にさせていただきながら、生産者の皆様の少しでもお役に立てるように努力してまいります」と一本締めにて中締めを行っていただいた。

21日は観光コースでまずはウポポイを見学。ウポポイという言葉はアイヌ語の”大勢で歌うこと”から由来しており、かつて北海道に暮らしていたアイヌ民族の文化や歴史が広く紹介されている。施設内では、アイヌ民族の生活や伝統以外にも言語、芸術、宗教について説明・展示されていて、アイヌの暦である「イタツプ」に基づいた季節の行事や、伝統的な舞踊や音楽などのパフォーマンスによる体験交流もあった。その後、支笏湖へ向かい澄み渡った湖を眺めながら、道内ではチップと呼ばれるヒメマスに舌鼓を打った。観覧船にも乗り、美しい景色を眺めながら雄大な自然を楽しんだ。

ご参加いただきました皆様のご協力によって、素晴らしい研鑽と交流を図ることができました。ご多用の中ご参集賜りました会員各社の皆様には厚く御礼申し上げます。

来年は東部菱肥会主催のブロック交流会を企画いたします。アイデア等ございましたら当社社員までお願いします。

東京は梅雨が終わったかのような晴天と暑さがやってきました。水分&塩分補給忘れずにしましょう。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>